

一般質問(要旨)

石川 和広

市の環境政策について

①環境政策部門の創設の時期は。②記録的猛暑環境負荷低減や教育環境の観点ではなく生徒の体調管理の観点から小・中学校普通教室のエアコン設置はもはや必要不可欠。③平成19年11月施行の環境配慮契約法への取り組みは。

①なるべく早い時期を考えている。②今後の検討課題だが、子供たちの健康を第一に考えていきたい。③市の実情に即したものを含め先進事例を参考にし関係部署に研究させた。

高齢者施策の充実について

①あんしん見守りサービス、対象者50人というものは財政上の理由か②要件を満たしたすべての申込者を対象にできないか③「障害者特別控除」各市要件が違う理由は④特別控除対象者拡大を視野に入れた要件の緩和は図れないか。

①対象者を絞り申込者数を想定したもの。②受け付け状況の様子を見て検討していく。③要介護度や自立度のとらえ方の違い。④各市の状況等

を情報収集し研究していきたい。

市民サービスの向上に向けて

①子育て情報サイトでメールによる育児相談を。②AED未配備でスポーツが行われている市の管理施設があるが、AEDの貸し出し制度はできないか。③市内AED配備箇所とその設置ポイントを市のホームページに掲載できないか。

①双方方向型コンテンツとなるため準備に調整が必要であるが、順次進めたい。②どんな形で準備すればよいかを含め研究していく。③公共施設・民間施設あわせてお知らせできるようにしたい。

亀井 和美

5月30日から始まった鳥取方式による芝生化の実証実験について

①実証実験にかかわってくださったっているとんぼの会の感想。②市として実証実験の結果の検証。③今後実施に向けての課題と問題点。④今後の保育園の芝生化について。

①ティフン芝の特性を生かし通年楽しめる公園を目指したい②従来の芝の活用方法を大きく変えていくと思う③前原公園中央部の芝生をティ

フトン芝へ張りかえが可能か、コスト面等含め検討したい④保育という視点から検証する。

障がいのある児童・生徒にとって、必要な特別支援学級について

①狛江市における特別支援学級の児童数に対して、今後の増加傾向をどのようにとらえているのか。②五小と六小には固定学級も通級指導学級もない状況に対する認識。③全小学校に通級指導学級を設置するに当たっての課題・問題点。

①潜在的に特別支援を必要とする児童・生徒が改めて認知されてきたと認識。②新たな東京都の取り組みを注視していく。③適切な指導と必要な支援が受けられる教育環境の整備。

市長の目指す「子育て一番のまち」について

①市長の目指す一番とは。②次世代育成支援行動計画を全部やらないと一番にはなれないのでは。③細菌性髄膜炎に対して、23年度にはヒブワクチンの公費助成を。

①実感する市民が多数を占めることが到達を図る物差し。②受けとめる側の感じ方が一番の問題。計画への到達またはその努力を評価いただければと考える。③他の任意ワク

佐々木 貴史

安全・安心なまちづくりについて

①防災について、いざというときに特養や障がい者施設との連携は②備蓄倉庫に災害救助用工具の配備を③防災無線の聞こえない地域に防災ラジオの貸与等の検討は④児童虐待について、緊急通報先と24時間での体制は整っているのか。

①今後検討したい。②計画的に充足できるように考えたい。③国や都の補助金があれば予算の中で検討していく。④児童相談センターでは24時間体制、また市に通報された場合は対処している。

子育ての環境整備について

①保育園新設については民設民営による誘致等の考えはあるのか②家庭的保育事業について検討を③放課後対策事業の中で財政的な観点から効果のよい事業は④学校長期休業中の児童保育所の開始時間を早めてほしいということ要望。

①どのような手法で実施するのが一番適しているのか検討する②補助制度の内容や市の支援を充実する③各事業の特徴と事業時間やサービス内容が異なるため、財政面だけでは比較できない④利用者の要望等を整理した上で検討する。

チン等の優先順位を考えながら検討している。

市民要望の実現に向けて

①こまえバスのバス停間隔が長いところや不便な場所にバス停の新設を②車いす利用者駐車スペースから市庁舎に入りやすくする整備を③デマンド交通の検討を④多摩川土手の舗装整備と土手への階段に手すりの設置を強く要望する。

①要望について今後検証し、地域公共交通会議で検討する。②早急に改善したいと考えている。③以前に検討した結果、デマンド交通の機能が発揮できないと判断した。④整備が円滑に推進できるように、条件整備に努めていきたい。

正木 きよし

「音楽と花火の祭典」の総括と引き続きの実施について

8月5日に開催された「音楽と花火の祭典」は大成功であったと思う。そうした中、市はどのように総括したのか。また、来年度以降も実施すべきと考えるがどうか。

市民の心を一つにして市制40周年を祝うという目標が達成できた等感想はあるが、観光協会・実行委員会からの報告を受けて検証する。来年度以降は、予算編成の中で議会や市民の声を聞きながら判断する。

①前議会以降の経過と市の対応。②準工業地域に指定されているところに住居専用マンションが建つのは本来の用途地域指定の目的から外れる目的外使用であり、住居使用なら住居に合った高さ、建ぺい率、容積率にすべきである。

①調整会の準備として3団体と事業者に見解聴取を行った。2団体の主催で説明会が開催された。②準工業地域は工業と住宅の混在が前提の地域で、マンション建設を阻止する手法としての住居系への変更は困難と思う。

市長の政治姿勢について

①虚偽の病気休暇届を出して再就職活動をした職員を円満退職させたことについて。②不透明な市有地払い下げ(東和泉三丁目)について。③多摩川住宅1号棟自治会(当時)の交付金不正受給について。

①手続的に対応は間違っていないが、考えた上で売却している。②正規の評価をした上で売却を求め、市もチェックできる体制を整えるよう意思統一した。

河西 かず

実施計画作成のおくれが予算編成にも影響か。後手後手の市政運営

①3月議会では4月から5月にできると言っていた実施計画が8月末までおくれたのはなぜか②七小跡地を自転車

保管場所にするための予算が本予算ではなく、補正予算なのはなぜか③三中移転に関しての市民参加の手続はとられるのか。

①当初既存計画のローリング日程予測で答弁したこと、さらに細部にわたる点検・調整に時間を要したため。②当初予算では校舎解体のおくれや施設の広さ、位置等が未確定だったため。③事業開始に向けた説明等を行っていききたい。

市民参加の審議会・委員会の答申は市政に生かされているのか検証

①平成18年8月に出された補助金評価委員会の答申は予算編成に生かされているのか。②外部評価委員会はいつごろできるのか。③9月1日に始まった川崎市のパーベキュー有料化を受けて狛江市としては対応を考えているのか。

①19年度予算において一定の整理を行った。②10月中旬に委員会を設置、11月に第1回会議を開催する。③市民討議会での報告にあるように、禁止を含む規制を視野に入れ検討する。

市原 広子

生活保護制度で反貧困の取り組みを。課題は

①狛江市の貧困の定義と貧困世帯数②保護制度の目的③野宿者支援。貧困ビジネスにゆだねていないか④尊厳ある生活支援のためにアパート入居と住民票取得支援を⑤緊急一時保護のサポート借上げを⑥